

環境調査結果のお知らせ

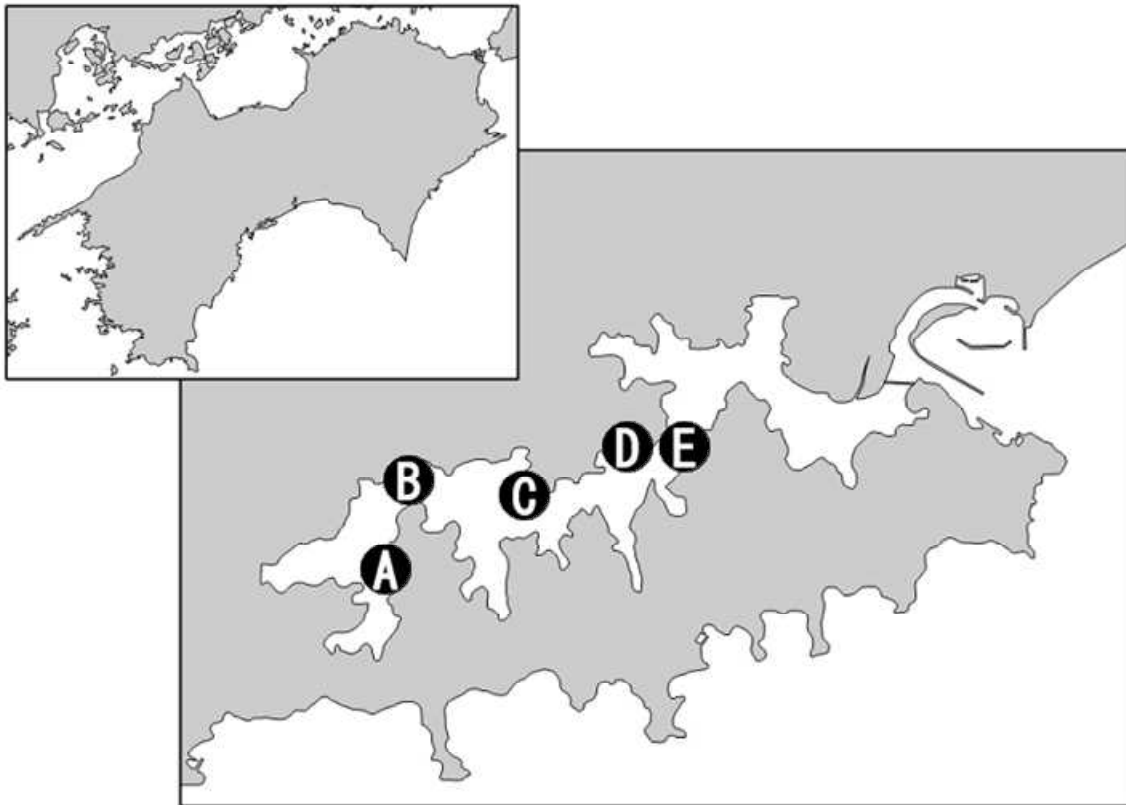
令和7年5月21日10時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

概況

検鏡の結果、魚類に対して有害なケラチウム属が最高で87 cells/mL確認されました。ケラチウム属は100 cells/mL以上になると、養殖魚の餌食い悪化が懸念されますので注意してください。

海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン	
	深度	水温	塩分	溶存酸素	ケラチウム 属	珪藻
	(m)	(℃)		(mg/L)		
A 鳴無 (5.2m) 【10:20】	0	25.0	26.3	9.8	3	-
	2	24.8	31.3	8.9	87	-
	5	23.4	32.3	8.8	7	-
	底層 8.5	22.2	32.7	6.7	1	-
B 中学校前 (2.4m) 【10:25】	0	24.5	26.4	9.5	0	0
	2	22.6	30.4	9.4	20	0
	5	21.9	31.9	8.3	19	0
	10	21.8	32.7	6.8	0	0
	底層 12	21.3	32.8	4.9	0	0
C 目ノクソ (2.9m) 【10:33】	0	24.6	26.8	9.2	10	-
	2	22.4	30.6	9.3	12	-
	5	21.3	31.8	7.5	15	-
	10	21.2	32.8	6.3	0	-
	底層 15	20.1	33.0	3.5	0	-
D 光松 (2.5m) 【10:49】	0	23.8	28.9	8.2	0	9
	2	22.2	30.4	8.0	23	0
	5	21.0	31.7	7.3	10	0
	10	20.8	32.3	6.4	0	0
	底層 16.5	20.1	32.9	2.9	0	0
E 大鹿 (2.2m) 【10:57】	0	23.8	28.8	8.5	7	-
	2	21.9	30.6	8.2	20	-
	5	21.0	31.6	7.2	13	-
	10	20.8	32.4	6.2	0	-
	底層 16.5	20.1	32.9	3.3	0	-



- A: 鳴無
B: 中学校前
C: 目ノクソ
D: 光松
E: 大鹿

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準（※1）	警戒基準（※2）	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5～8月	6～8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6～8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2～4月	5～6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3～12月	4～8月	4～11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6～7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8～9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8～11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキシサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1～4月	3～5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2～7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。